

## 武蔵野市第四期長期計画調整計画策定委員会（第10回）会議要録

- 日 時 平成19年8月2日（木曜日） 午後7時から午後10時3分まで
- 場 所 市役所8階802会議室
- 出席者 田村委員長、酒井副委員長、山本副委員長、加瀬委員、栗原委員、前川委員、向井委員、村井委員、会田委員  
企画政策室長、企画調整課長、企画調整課副参事（行政経営・評価担当）、企画調整課副参事（新公共施設開設準備担当）ほか、傍聴者14名

### 1 開 会

### 2 議 事

#### （1）議事録の確認

【事務局】要録については事前に確認いただき、訂正したものを配布した。本日確認いただいて、ホームページで掲載したい。

#### （2）人口推計について

【事務局】時間も限られているので、簡単に説明させていただきたい。

今回行ったのは、目標年次を平成40年とした推計である。人口については、総人口、性別年齢別人口、町丁目別性別年齢別人口、乳幼児人口数、学区別児童・生徒数、外国人人口、昼間人口の推計を行った。世帯については、家族類型別世帯数及び高齢者世帯数の推計を行った。

趨勢人口の推計にあたっては、コーホート要因法を用いた。今後、仮に大規模開発がないと仮定すると、総人口は13万5635人をピークに減少すると推計される。

次に、現在市が計画を把握している大規模開発を加味し、推計を行った。ここでは、今後数年間に予想される大規模開発に伴って、人口が急増することが特徴であり、ピークの総人口は13万9457人と推計される。

世帯数については、本市では一貫して増加傾向にあり、今後も、伸び率は縮小するものの、推計期間において増加をし続ける。世帯主率法を使った推計では、最終的には7万7807世帯に達すると推定される。なお、その時点の1世帯当たりの平均人員の推定は1.78人まで低下する。

【委員長】コーホート要因法は、現在の人口を基準にしながら、様々な変数、パラメーターを設定して、人口を推計するものである。推計値は現在の傾向は引き継ぐが、土地利用などの外的な変動要因がどれほど発生するかに影響される。そのため、今回の場合、計画期間内に非常に大きな変動があり、それがまた新しい変動要因となっていくと考えられる。一昔前のように、人口数に合わせて色々な関連公共整備

をしていくような計画であれば、非常に大きな影響ではある。

【事務局】人口推計は、長いスパンにわたって正確であるかどうかという点、なかなか難しいものである。

【委員】マンション開発だけでなく、商業の活性化による昼間人口や流入人口の増加も見込む必要があるのではないか。

【事務局】市が計画を把握している大規模開発については、折込済である。それ以外の一般的な開発は過去の中に傾向が反映されている。また統計的なデータに基づいた推計なので、実感とは異なる部分はあると思われる。

【委員長】最近では、計画の対象としても、市民という中にも、法人市民とか昼間人口を市民に入れる傾向がある。しかし、数値としては概ねこのような傾向であると思われる。

### (3) 討議要綱について

【委員長】従来は計画のミニ版のような形で書いてきたが、今回は計画の中で調整をしなければならない論点を挙げて、多方面から意見を伺う、あるいはそれを提示して市民の皆様に議論を誘発するような形で出していきたい。

今回は策定委員会に先立って市民会議が開かれ、非常に豊富な問題提起が出されている。私としては、この市民会議というのを武蔵野がこれまでたどってきた市民参加の最も進化した形としてきちんと守っていききたい、今後も守るべきシステムというふうに考えたい。

市民会議提言の全てを調整計画に入れられるということではなく、市民会議からの問題提起を、調整計画策定のための問題提起の基本に置きたいと考えている。策定委員会の役割は、市民からの課題提起、提案というのを受けとめ、行政の非常にリアルな話との媒介をし、これを肉づけ、選択し、豊富化していくことである。

この間、作業部会を開催し、市民会議からの問題提起と、行政がリアリズムとして色々と検討してきたことを策定委員会が整理してきた。今日は、健康・福祉を除く4つの分野で、策定委員が議論してきたことで、市民の皆さんに議論していただきたいことの範囲とその要点の骨子を第1次案としてご説明いただき、議論していく。

### ○子ども・教育分野

【委員】新規に取り入れたもの、訂正したものを中心に説明する。

長期計画でも掲げられた家族のきずなを第一に考えるという理念を受け継ぎながらも、現実を踏まえて、子育てをしている家庭自身が支えられているという実感が持てる支援を進めていく必要があるとした。同時に、すべての子どもの育ちと学びを保障する環境を整備して、子どもにとって幸せにつながる施策を推進することも掲げている。学校教育についても、家庭、地域、行政が一体となって取り組んでい

くことが重要であるとし、武蔵野市の特色ある学校づくりを推進していくということ挙げた。生涯学習社会では、いつでも、どこでも、だれでも学び直して自己実現を目指すことが保障されなければならないと掲げ、人的、文化的資産の活用と、学校教育との連携をうたった。

具体的な論点としては、公立保育園の今後のあり方について、皆さんに広く検討いただきたいということで、問いの形式とした。一方、人口推計でもふれられた通り、大型マンションの建設等による人口増加があると、保育園の対象児童数の増加も予測されるので、多様な主体を使って待機児童の解消を図っていくものとした。

子育て支援施設ということでは、泉幼稚園跡地、境幼稚園の発展的解消後の子育て支援施設、武蔵境圏の0123施設等の検討を挙げた。また、児童館についても設置を希望する市民の声と、利用者が減少している現実の双方を記載し、児童館が果たすべき役割、望む役割を問い掛けた。

学校教育については、教員加配による少人数学級の実施や、小学校高学年の教科担任制の導入等を挙げている。心の教育や食育、新しい教育テーマも取り組むための仕組みづくり等、市民会議提言で大きく取り扱われた課題を盛り込んだ。

青少年施策については、青少年の「居場所」づくりについて、問いとしている。また、市内在学の大学生との連携・協力についてもここで掲げている。

生涯学習施策については、図書館についての記載を充実させ、文化施策への貢献にもふれた。

【委員】「多様な主体」という表記がよく分からない。子育ての主体はあくまで子どもがいる家庭自身ではないのか。

【委員】ここで「多様な主体」というのは、保育園、保育ママ、幼稚園の預かり保育等を指している。

【委員】「多様な主体」というのは、まさに多様なあり方をしている家庭のことであり、保育園や幼稚園は、それを支えるための「社会資源」ではないのか。

【委員】多様な制度や仕組み、とすれば、誰にでも分かりやすくなる。

【委員長】「企業での働き方の見直しを含め」というのは大切だ。直接的に子育てを支えるだけではなくて、非常に間接的に重層化しているわけで、その辺りの議論も必要だろう。

【委員】プレイスについては、「心身ともに健全で豊か」だけでなく、生きる力とか希望とかチャンスを与えるような、そういうニュアンスを書き込めないか。

【委員】「心の教育」についての記載があるが、従来の道徳教育のようなことだけでなく、もっと広い意味合いを込めて、他の人の思っていることを考えるというプロセスを経て、子どもたちの心が豊かになっていくようなことに意味があると考え

【委員】他者性のようなこと。つまり、自分と異なる立場や感性についての理解、

というようなことだろう。

【委員】「青少年の『居場所』作りについてどのように考えるか」という問いは、漠然とし過ぎているのではないか。

【委員】青少年施設を作ろうとしているところなのだから、むしろ青少年に意見を言わせるような趣旨が大切なのではないか。

【委員】武蔵野プレイスについての問いであるならば、具体的に書く方が良いでしょう。

【委員】武蔵野プレイスは全市的な問題であって、むしろ地域の中学生がどこに行けば良いのか、という問題意識からの問いだろう。

【委員】武蔵境圏だけでなく、若者が多い吉祥寺にも居場所が必要ではないか、という意見があったので、考えた問いである。

【委員長】公が設置した居場所の例はあるか。

【委員】長野県茅野市には、そのような例がある。駅前の施設のワンフロアを、青少年のためのスペースとしており、利用者は自分たちでルールを決めて運営している。

【委員】「居場所」のイメージは、大人の視線を気にせずに伸び伸び過ごせる場所ということか。もう少し社会貢献的な、社会的活動を含めた意味合いか。

【委員】子どもにとっては、大人が用意したところなんて楽しくない。商店街とかコンビニとかの近くに、ちょっと休憩できるような場所が、高齢者でも中高生でも使えるような場所があるのが良いのではないか。

【委員】「居場所」というと、意味もなく暴れたり騒いだりするというネガティブなイメージを持たれている子どもたちを、「居場所」を作って押し込めてしまうという印象がある。むしろ、中高生は大人に刃向かう、抵抗するということで成長していく面もあるし、感受性の強い時期に、色々な人とふれあってその感受性を育てることのほうが重要なので、大人とのかかわりの中から自分の将来を見詰めるというようなシステムのほうが良いのではないか。

【委員】今、中学生とか高校生というのはだんだん地域社会のお客さんになっている。基本線は、そういう若い人たちを地域の中にかかわらせていくということが、これから色々な意味での地域社会につながる。それは異年齢交流とかいうことを含めて、そういう大きいテーマがあって、この問いが出てくるのではないかと考える。例えば中学生、高校生が地域にどのような「居場所」を必要としているか。それが地域の力を養うことにどう結びつけられるか、というような記述が適当ではないか。

#### ○緑・環境・市民生活分野

【委員】すでに長期計画や個別計画の中に記載のあるものは、ほぼカットした。やらない、ということではなく、討議要綱なので削ったが、調整計画には記載する項目も多々ある。

前文には、緑化の推進、温暖化対策、防災、コミュニティの課題、防犯、男女共同参画、観光・市民文化の課題について、この分野に含まれる各テーマについての考え方を簡単に述べた。

環境分野の課題としては、フィフティ・フィフティールールの導入、クリーンセンターの建替えについて挙げ、さらなるごみ減量化に有効な方法を問い掛けた。

緑の分野の課題としては、自然環境センターの設置、市民に使われる公園整備のあり方、緑の質の検証について記載した。学校校庭の芝生化については、緑の創出、良環境の創出・育成という観点から、学校の自主性を尊重しながら検討・実施するとした。学校の意欲を尊重し、また、学校の先生の仕事を増やすのではなく、地域の人たちも一緒に管理運営に取り組むということを併記する必要がある。

産業の振興については、女性の起業やS O H O等の新しい産業についての支援の必要性を述べた。

農業・商工業については、実態調査に基づく政策立案の必要性と、「歩いて暮らせるまちづくりーコンパクトシティーの実現」を掲げた。地域の人々が寄って集ってこれからの武蔵境のまちづくりを考えるための組織として、武蔵境活性化支援センターについても提案した。

就労支援については、多様な層の就職に対しての支援策の検討、部分就労を含めた新たな就労形態やN P O等や地域コミュニティを介しての地域活動への積極的な参加を検討・支援するとした。

都市観光の推進については、全体の統一感やバリアフリーに配慮し、様々な要素を観光資源として整備する。

防災体制の強化については、自主防災組織の創出、消防団の詰所の整備、災害弱者の救出・支援のプライバシーに配慮した仕組みの研究、避難所の整備が必要である。

防犯性の高い快適なまちづくりについては、駅前のマナーアップキャンペーンの取組み強化を掲げた。環境浄化については、旧近鉄裏と吉祥寺駅南口でのスカウト、客引き行為の対策強化が必要かを問い掛けた。

市民活動の活性化と協働の推進については、N P O活動促進基本計画を受けた協働のハンドブック作りを記載した。団塊世代の地域活動等についても、今後検討を進めることになるだろう。

コミュニティのあり方について、幅広く検討し直す必要があるとし、コミュニティ市民委員会を設置する。問いとして、コミュニティセンターのあり方を見直す必要があるか、というものを設けた。

男女共同参画社会については、ヒューマンネットワークセンターの今後のあり方やドメスティックバイオレンス等の表面化してきた課題について、第二次男女共同参画計画の策定過程において検討が必要な課題とした。

交流事業については、国際交流では留学生達との市内交流の促進、国内交流では

お互いが支え合える、支援し合えるような関係で交流の検討を提案した。

市民文化施設については、特に、吉祥寺美術館と公会堂についての課題を提起した。

歴史資料館については、必要性和その内容について、市民に問い掛けた。

武蔵野プレイスについては記載しなかったが、多分野にかかる課題についてはどこで取り上げていけばよいのか。既に実施段階にある今、調整計画ではどのように問えばよいのか。プレイスの計画策定を例にとり、今後このような計画を策定する場合のプロセスについて、策定委員会で検証しておく必要があるのではないか。

【委員長】消費者行政についてはどうか。

【委員】従来の計画以上に特筆すべき点はないと考える。その延長線上に、今後の計画はある。

【委員】観光振興計画についての記載が必要ではないか。

【委員】現在策定中の計画であるため、討議要綱の時点では記載ができない。調整計画（案）の時点で、記載ができるのではないか。

【委員】就労の問題については、多分野で議論されているので、調整が必要だろう。現在の記載は、非常に広範囲に扱っているので、健康・福祉分野で取り扱っているところも含んでいる。ただし、健康・福祉分野は議論途中であり、この場でどのように調整するかは議論出来ない。

防災の問題、コミュニティセンターの問題も、健康・福祉分野でも提起している問題でもあるので、後日調整が必要だろう。

【委員長】問いについてはどうか。答えやすいものになっているか。

【委員】環境浄化の推進についての問いはどうか。

【委員】これはつまり、今までいろいろと取り組んできたけれども、今後、行政の取組みとして、ああいういわゆる営業行為を一掃するようなことが出来るものなのか、あるいはやっていいものなのかどうなのか、という疑問が、行政としてあるのではないか。

【委員】防犯カメラとプライバシーの問題とか、防犯カメラやガードマンがいるような殺伐としたまちのイメージとの兼ね合いを質問するということならイメージしやすいが。

【委員】私が終電で帰ってくると、吉祥寺の南口は、ほぼ無法状態と言えると思っているが、市民の苦情は多いのか。

【委員】9時までですから、それ以降は自己責任では。

【事務局】現在は9時までのパトロールで、その時間帯までは一定の効果をあげて、しつこい客引き等はなくなっている。しかし、9時までであっても、その存在が耐えられない、というような市民の声はある。先ほど、自己責任という意見もあったが、どこまで行政がやるべきか、警察との役割分担等について議論はある。

【委員】少なくとも、自分で判別がつかない、きちんと断ることができない、そういう子どもたちへの配慮は必要で、そうであると9時というのはもっともではないかと思う。

都市基盤分野の議論で、吉祥寺のまち自体がそういうものを寄せつけないような雰囲気やデザインに、環境が整備されるというような議論の仕方はないのか。

【委員】現時点ではそのような議論は難しいが、ハードで解決できるものもあるのではないか。

【委員】「男女共同参画社会の推進」について、条例化についての記載がないが。

【委員】作業部会での議論では、計画を先行し、その後で条例の検討というスケジュールがあるようだ。

【委員】個別計画にある記述を活かし、「条例を含め」て検討する、でどうか。

【委員長】どこにポイントを置いて計画を策定するかを書いた方が良いのではないか。感覚的ではあるが、武蔵野市は、こういう取組みが非常に遅れている。

【委員】男女共同参画については、前文において、第一に男性、女性ともに働きやすく子育てしやすい条件整備、第二に教育の問題ということを述べている。

【委員】やはり重要な課題として、問い形式にした方が良いのではないか。

【委員】私の判断では、既に答えは出ていて、あとは取り組むだけという感覚だ。

【委員長】時間制限があるので、環境浄化と男女共同参画については、ペンディングにいたしたい。

【委員】産業振興についての記載だが、農業振興基本計画や路線商業活性化懇談会の提言については、すべて実態調査に基づき、当事者も参加して計画を策定しているので、それを踏まえた表記が適切だろう。

また、市民協働推進事業については、既に実行されている事業も複数あるので、検討ではなく、さらに推進するという記載が適切であろう。

【委員長】具体的にはどのような事業か。

【委員】環境政策課所管の事業で、地域猫の会とか、吉祥寺の落書き消しちやい隊とか。公園づくり等も今後さらにこのような取組みを進めることになるだろう。

【委員】防災態勢の強化については、防災安全センターが完成したので、それを踏まえた記載が必要ではないか。

## ○都市基盤分野

【委員】前段については、インフラを更新する時期であるということと、まちの中で大きく変わった点と変わらない点ということを題材に、概観的に述べた。

参加と連携によるまちづくりの推進に関しては、特に重要な点として、まちづくり条例の制定がある。条例の大きな柱は、無秩序な開発の抑制と市民の参加と協働の推進である。これを踏まえ、実効性を高めていくために、市民のまちづくり活動を支える専門的・中間的な機関の設置、都市マスタープランの見直しを述べた。

まちづくり条例に即して、地域の課題や特色にあわせた、住民による主体的なまちづくりを進めるため、地区まちづくり計画を策定する。景観条例を検討する中で、屋外広告の規制や無電柱化を研究していく。地区レベルのまちづくりについては、ソフトウェアとして、コミュニティの力に期待するところは大きく、コミュニティ協議会と連携した地域のまちづくりプランの策定を検討する。

他分野でも指摘のある公共施設のバリアフリー整備の遅れについては、既存の公共施設にはバリアフリー整備の困難なものもあるが、点検と現状の公表を行い、改善の策も含めた段階的な対処を早急に行う必要がある、と述べた。バリアフリー新法の趣旨に基づき、面としてのユニバーサルデザインに基づくまちづくりを実現していく。

防災・防犯施策については、他分野でも取り扱っているが、都市基盤分野では、3 駅圏の土地利用や道路の状況に合わせて、来街者等の対策を含めた防災計画を策定する必要性を述べた。

住宅施策については、建築倒壊という防災との絡みから耐震対策の積極的推進と、問いとして、多様な市民が住み続けられるために、市は個人住宅の問題に踏み込んだ施策を実施すべきかどうかを記載した。

円滑な移動環境を整備するために、自転車、歩行者、それからムーブスの運行等も含めて、何点か課題を提起した。自転車については、地球温暖化防止として、また市民の移動手段として非常に重要であるという認識と、一方では自転車が不幸な事故のもとになっているということ、自転車事故が減っていないということの両側面から、歩行者と自転車が安心して移動できるまちづくりの検討を挙げた。総合的な移動手段として、ムーブスについても路線の運行ルート等の見直しを挙げた。

自転車については、不法駐輪が解消されていない現実を踏まえて、新規整備だけでなく、既存駐輪場の運用の見直しも含めた検討が必要である。商店街や関係機関を含めた検討も必要であろう。

歩行者と自転車にやさしい移動環境の実現に向け、生活道路の移動空間を自動車主体とする施策から、歩行者と自転車を主体とする施策に転換することについてどう考えるか、という問いは、市民の注意を喚起する目的で設定した。

外かく環状道路については、その2について、東京都に対し、さまざまな面から検討を行うように要請していくと記述した。また、歩行者、自転車が日常的に使う生活道路でもある都市計画道路の計画策定にあたっては、市民参加が必要であるということ述べた。

上下水道の整備については、インフラの整備、水道施設等の再整備と都市型水害対策を含めた下水道整備について記載した。

作業部会での議論の中で、3 駅圏の整備についての課題をきちんと位置づけるべきだという指摘があったので、駅圏ごとにまとめた。

吉祥寺圏の整備については、ランドデザインの推進と自転車駐輪場の問題が大



きな課題である。

中央圏の整備については、高層ビル計画に伴い、居住ビジネスの人口の増加に備えて、都市機能を再考する必要がある。商業・文化・居住・安全・景観等幅広い視点に立ったまちづくりの方針を策定する。駅前広場、三鷹駅北口地区のまちづくりを検討するに当たって、地域の中に、まちづくりの中核になるようなセンター機能の設置の検討を提案した。同時に、就労支援の仕組みを入れ込むことを提案した。就労支援については、ワークシェアリングや有償ボランティア、財団やNPO等、従来の企業とは異なる就業形態が増えていく中で、こうした仕事と人材を繋ぐ就業支援の人材バンク機能を持った情報機関の設置は、幅広く考えれば行政がやるべき役割ではないか。また、企業を含めた地域での働き方の情報を、どこが繋いでいくのかという課題を意識して、ハローワークについて何か問いかけたいという思いから、実効性についての設問を用意した。

武蔵境圏については、中央線の高架化の完成に合わせた駅前広場の整備や高架下利用の促進等の取組を推進していく。また、この間の一番懸案になっている武蔵境周辺の公共施設、「武蔵境駅周辺地域の公共施設（市民会館、ヒューマンネットワークセンター、スイングホール、武蔵野プレイス（仮称）、西部図書館）の体系化は必要か」という問いを設定した。

【事務局】ハローワークは国の機関であり、それについての実効性を判断するという記載については、趣旨は理解するが、少し表現を変えていただきたい。

【委員】第五期基本構想・長期計画は平成25年度からのスタート予定であるので、23、24年度で策定作業を進めることになる。都市マスタープランについては、これに合わせて、23年度あたりをスタートとして見直しを行うという理解でよろしいか。

また、言葉の並び順について、補完性の原理ということを考えれば、「自助・共助・公助」という順番がよろしいのではないか。

【委員長】3駅圏のまちづくりについては、もう少し書き込みが必要ではないか。

吉祥寺圏については、グランドデザインが策定されたところではあるが、グランドデザインは非常に大括りな提案書なので、市民の目線と生産者の目線から戦略的な選択を行うべきだろう。

中央圏の整備については、3駅圏の差別化を図るという意味で、提案する意味があるのではないか。都市機能が変化し、本格化してくる。

武蔵境については、駅前広場や高架下を利用した駐輪場の整備、高架化を契機にした商店街の活性化を盛り込む必要があるだろう。

【委員】中央圏の整備で、就労支援の仕組みを持つセンターを整備するという提案は、作業部会を経て出されたものではあるが、やはり唐突に思える。

もしここで問うのであれば、むしろ三鷹も、吉祥寺まちづくり事務所や武蔵境開発事務所のような、市民がまちづくりに対して意見をいえる場所をつくるべきか、

という方が、ここでは自然である。その議論の中で、三鷹駅圏の特色として、就労支援という議論も出来るのではないか。

【委員】就労支援については、他分野とのすみ分けもあり、ここでは具体的にどのような機能を展開するかということになるだろう。もう少し議論が必要と思われるので、センター機能の必要性についての問いに戻したい。

【委員長】外環のその2については、個人的には必要ないのではないかと考えている。検討の要請より前に、大深度の影響をはっきりさせることが必要ではないか。

事務局からの現況の説明でも分かる通り、今まさに、この5年間ぐらいがいわゆる空地が開発される段階で、参加と連携のまちづくりの推進を早急に、というか緊張感をもって仕組みづくりに取り組まねばならない。

【委員】吉祥寺圏については、もう少しメリハリをつけて、言いたい事をはっきりと記載したほうが良いだろう。策定委員会での議論や傍聴者の意見を聞いていて、現在の吉祥寺のあり方に結構不安や不満を持っている人が多いということが分かった。大きいハードの整備と、もう少しソフトな面と、もう少し問題提起した方が良いだろう。

【委員長】南口広場の整備などの優先事業は、できる限り積極的に進めていくというぐらいの迫力があっていいだろう。

【委員】武蔵境圏のまちづくりについて、公共施設の体系化が必要かという記載があるが、これは子ども・教育分野の記載と矛盾するのではないか。意図は何か。

【委員長】体系化は必要だ。

【委員】体系化をどう進めるか、だろう。

【委員長】健康・福祉分野と行・財政分野については、次回の前半に議論する。次回後半は全体の議論ということでいかがか。

【事務局】日程調整の結果、市民会議委員との意見交換会は9月2日、午後1時半からとなった。次週早々に通知を発送いたしたい。